

和の家
[吉木]

古民家再生モデル住宅

漆喰の塗り壁はリノベーションした20年前のまま。きれいな状態が保たれている



遊び心をそそる薪ストーブ
のある談話スペース



古の職人技を目の当たりにできる大きな吹抜け。ダイナミックな小屋組を確認できる



薪ストーブは、バーモント・キャスティング社のデファイアントを設置。重厚感が古民家によく似合う



梁や柱などの構造は昭和初期に建てられた時のものを残して、デザインは一新。床は厚さ3センチの小国杉で仕上げ、壁はスペイン漆喰を使用

古民家再生モデル住宅

和の家
[吉木]

人生のセカンドステージは
美しい古民家で過ごす。

子育てが終わる50代、リタイアを迎える60代は、
親から家を譲り受ける人も増える時期。懐かしい家を
快適空間にリノベして、終の住処にする人も増えています。

古民家リノベーションの
専門家が叶える
安心・安全・快適な暮らし



自然に囲まれた「和の家[吉木]」。周囲の花木が住まいに華やきを添える



今から20年ほど前のこと。「筑紫野市の山間に昭和初期に建てられた古民家が売りに出ている」と聞いた「ハウスランド社」代表の三上信比古さんは現地調査で訪問。建物の内部を確認すると、ポロボロの見え目は裏腹に、構造は頑健なままであることに気づいたそうだ。柱と梁の状態が良かったことが決め手となり、この建物のフルリノベーションを行ない、モデルハウスにする

ことにした。以来、この和の家「吉木」は古民家再生のモデル住宅として、昔ながらの木の家やリノベーションに興味を持つ人の心を惹きつけている。特に強く関心を寄せるのは、セカンドステージの住処を検討中の50〜60代。両親から受け継いだ古い家を、住めるように改修できないか?という相談も少なくないという。巷にリフオー

ム会社は数あれども、構造の確認に専門的な技術が必要な古民家リノベーションは誰もが対応できるものではない。「古民家には間取図がなく、図面を制作することから始めなければなりません。私たちは柱の位置や梁の具

合を確認して、なるべく柱を移動させないように間取りを提案しています。柱の位置が同じだと元の家の名残も感じられ、懐かしい心地よさを保つたまま新たな空間に生まれ変わらせることができます。さらに、窓、床、屋根の断熱性能を上げるのもポイント。「和の家[吉木]」では夏はエアコン2台で建物全体を冷房できるんですよ。設計担当・糸山葵さん。実際、取材時は35度を超える真夏日だったが、吹抜けのある大空間はどこもかしこもひんやりしていた。